

コロナ新時代の学生交流:

大阪大学周年事業オンライン特別講義プログラムの実施について



海外交流

藤田 清士*, 辻 敏彦**

Post-Covid Student Exchange:
Osaka University Anniversary Online Special Lecture Program Project

Key Words : student exchange, post-Covid, online lecture, SDGs

はじめに

全世界的な COVID-19 感染拡大により、留学生受入れや学生の海外派遣は制限を受けている。一方で、これまで大阪大学が築いてきた協定校等との連携をさらに強化することによりオンラインによる留学システムを構築し、協定校あるいは本学に在ながら留学を体験する機会を提供することが可能な好機であるとも考えられる。

河原源太大阪大学理事・副学長（グローバル連携担当）の強いリーダーシップのもと、コロナ新時代の学生交流の方針が立てられ、2020年8月には「コロナ新時代における学生交流検討ワーキンググループ (WG)」が立ち上がり、本オンライン特別講義プログラムが立案された。

2021年は大阪大学の創立90周年にあたり、2007年に統合した大阪外国語大学の創立100周年を迎える年である。この周年を機会に、本学が有する自然科学から人文社会科学までの幅広い分野における研究力を発信し、海外協定校の学生に特別講義プログラムを提供し、併せて最先端研究のテーマを中心に学生同士のディスカッションを行うことを計画した。

同WGにおいては学生の受入れや派遣に関し様々な検討を行ったが、本稿では「大阪大学周年事業オンライン特別講義プログラム」について紹介する。

特別講義科目の設定

オンラインプログラムでは、複数の特別講義科目を設定し、全科目の共通テーマは、SDGsが掲げる「社会課題の解決」とした。自然科学から人文社会科学までの本学の幅広い研究成果を伝えるため、前述のWGメンバーをはじめとする関係教員の協力を得て、最終的に11科目（各1単位）を開講することができた。各科目は全8コマで1単位を修得できる本学の授業科目として開講し、受入れ学生には本学の特別聴講学生として学籍を与え、所定の要件を満たした者には本学の単位を付与する枠組みとした。

この11科目（図1）の共通講義として、本学がパートナー校に呼びかけ実施する周年事業国際シンポジウム“The Role of Universities in Facing Societal Challenges and Recovering from COVID-19”の視聴を1コマとするとともに、本学の誇る大阪大学栄誉教授の特別講義を3コマ設定し、合わせて4コマを共通講義とした。残りの4コマは専用講義とし、その内、最終コマでは学生同士のディスカッションを設定した（図2）。幅広い学生に対して学修機会を与えるため、講義レベルは学部生対象としたが、大学院生の履修も可とした。

海外から受講する学生は、本学の Collaboration



* Kiyoshi FUJI-TA

1964年9月生まれ
神戸大学大学院自然科学研究科 地球環境専攻博士後期課程修了（1994年）
現在、大阪大学大学院 工学研究科 国際交流推進センター 教授
博士（理学） 専門／固体地球物理学
TEL : 06-6879-8972
E-mail : fujita@fsao.eng.osaka-u.ac.jp



** Toshihiko TSUJI

1972年6月生まれ
同志社大学文学部英文学科卒業（1995年）
現在、大阪大学 国際部 国際企画課 課長補佐 学士（英文学）
TEL : 06-6879-4409
E-mail : tsuji-to@office.osaka-u.ac.jp

No.	Course Name	Course Affiliation
1	SDGs I: Chemical Approaches for Sustainable Development Goals (SDGs)	School of Engineering
2	SDGs II: SDGs and Asia Pacific Region	Center for Global Initiatives
3	SDGs III: Aligning the Sustainable Development Goals and Climate Science	Center for the Study of Co* Design
4	Natural Sciences I: Material, Bio, and Synthetic Chemistry	School of Science
5	Natural Sciences II: Quantum Information Science	School of Engineering Science
6	Natural Sciences III: Science and Society in Nanoscience and Nanotechnology as Manufacturing Core	Institute for NanoScience Design
7	Natural Sciences IV: Advanced Biotechnology and Industry	International Center for Biotechnology
8	Humanities and Social Sciences I: UNESCO Chair in Global Health and Education	School of Human Sciences
9	Humanities and Social Sciences II: Digital Transformation (DX) and Modern Society	School of Law
10	Humanities and Social Sciences III: Halal Science	Center for Global Initiatives
11	Medical and Life Sciences I: Medical Science	Faculty of Medicine

図1 科目名及び実施部署

講義	SDGs 系科目 1~3	自然科学系科目 1~4	人文社会系科目 1~3	医学生命系科目 1
Day 1	① 周年事業国際シンポジウム			
Day 2	② 共通講義A 基礎工学研究科 石黒浩 栄誉教授			
Day 3	③ 共通講義B 脳情報通信融合研究センター 柳田敏雄 センター長・栄誉教授			
Day 4	④ 共通講義C 社会ソリューションイニシアティブ 堂目卓生 SSI長・栄誉教授			
Day 5	⑤ 科目毎の講義			
Day 6	⑥ 科目毎の講義			
Day 7	⑦ 科目毎の講義			
Day 8	⑧ 学生ディスカッション			

図2 全11科目の構成

and Learning Environment (CLE) という web 上の授業履修システムにより、大阪大学から配信する最先端研究、SDGs に関する研究等の講義を履修した。また、本学学生も特別講義プログラムの履修を可能とした。

講義の種類により、①オンライン同時配信、②オンデマンドのみの配信に加え、時差への対応で、①の録画のオンデマンドでの受講も可とした。

ティーチング・アシスタント (TA) として日本人学生及び留学生を各科目に配置し、オンライン配信の補助、出欠確認、Zoom のブレイクアウトルーム機能を利用した学生同士のディスカッションでのリーダー的役割などを担わせることとした。

本学の創立記念日である5月1日を受入れ開始日とし、7月までに終了する講義スケジュールを設定した。各科目の定員は100名としたが、後述のように結果的に、ほとんどの科目において受講希望者は100名を超えた。

授業での使用言語は英語としたが、人文社会科学系の1科目は日本語とした。なお成績評価については、科目担当教員が合否評価又は素点評価のいずれかを選択することとした。

また、各科目のオプションとして、研究分野に応じたオンライン研究室紹介ツアーや研究科紹介等のコンテンツを提供した。併せて全科目の共通オプションとして、グローバルイニシアティブ機構主催の「大阪大学『学生動画コンテスト』表彰式及び国際学生SDGsフォーラム(6月25日実施)」(図3)への参加を呼びかけた。

"3 MINUTES OF INSPIRATION FOR SUSTAINABLE DEVELOPMENT"
Osaka University Student Video Contest
AWARDS CEREMONY & STUDENT FORUM (online)
June 25, 2021 (Friday), 16:00-17:30
Japan Standard Time (JST), UTC+9

PROGRAM
Format: Zoom webinar (link will be sent to registered emails)
Language: English
Student MCs: Andrew McNevin, Gen Shinkawa and Haruna Suzuki

16:00-16:10
OPENING REMARKS & OSAKA UNIVERSITY'S SDGs ACTIVITIES
Genta Kawahara
Executive Vice President of Global Engagement/
Director of the Center for Global Initiatives, Osaka University

16:10-16:20
"A MESSAGE FOR STUDENTS"
Naomi Kawase, Film Director
Murali Chandrashekaran, University of British Columbia

16:20-16:50
VIDEO AWARDS CEREMONY
• Video Contest Overview, Brendan Barrett, Specially Appointed Professor, Osaka University
• Best SDGs Idea Award presented by Miwako Takahashi, Director/Secretary General, Kansai NGO Council
• Best Production Award presented by Susanne Schermann, Professor, Meiji University
• Grand Prize presented by Genta Kawahara, Executive Vice President, Osaka University

16:50-17:25
STUDENT PANEL DISCUSSION
• Presentation by Hiroshi Sakuma, Director of the Virtual Osaka Pavilion, the 2025 World Exposition in Japan
• Presentation by the winners and best video producers
• Discussion time

17:25-17:30
CONCLUDING REMARKS
Shojiro Nishio, President of Osaka University

Organizer: Center for Global Initiatives, Osaka University
Co-organizer: Center for the Study of Co* Design, Osaka University
Supported by: Kansai SDGs Platform
Creative Unit, Osaka University
HP: <http://osaku.jp/w0219> | Email: videocontest@cgin.osaka-u.ac.jp

Naomi Kawase
Film Director
The National Film Festival

Murali Chandrashekaran
Vice Provost International Affairs
University of British Columbia

Register (free)

<http://osku.jp/w0219>

図3 大阪大学『学生動画コンテスト』表彰式及び国際学生SDGsフォーラムのフライヤー

対象大学

本プログラムの募集に際しては、大阪大学グローバルナレッジパートナー校、大阪大学 ASEAN キヤ

ンパス設置校・同連携機関をはじめとする、本学の100校を超える大学間協定校（授業料相互不徴収覚書の締結校）の交換留学担当部署に案内を送付した（図4）。本特別講義プログラムに参加することで、海外の学生が本学の研究力に触れる機会を与えるとともに、ディスカッションを通して学生交流の機会も提供し、将来の本学大学院進学や研究者としての訪問などのきっかけになることを期待している。

図4 特別講義プログラム募集フライヤー

多くの学生に学修機会を与えるため、各学生は11科目のうち、1科目のみ履修を認めることとし、募集時には第3希望まで履修希望を聞いた。応募については本学の交換留学出願受付システムであるT-censを利用した。

タイムスケジュール

2021

- 1月中旬 各科目内容確定、募集通知案作成
- 2月上旬 各協定校に学生募集案内 約100校
- 3月中旬 出願締切（第3希望まで）

- 3月下旬 出願取りまとめ、受講者の確定
- 4月上旬 各学部・研究科に学籍付与依頼
- 4月末まで 各学部等で学籍発生の教授会等承認
- 5月1日 学籍発生、講義開始
- 5-7月 講義実施（科目毎に異なる）
- 8月中旬 成績確定
- 8月下旬 成績証明書・修了書発行

受講者数

図5のように、協定校からの履修希望者は1392名にのぼった。各科目の定員は100名としていたが、各科目担当教員に履修希望の状況を伝えたところ、定員を超えての受入れを快諾いただき、全員を第一履修希望科目で受入れることができた。なお、履修者が222名の科目が最大であった。

また、University College London (UCL) からは147名の履修希望者を得たが、授業料相互不徴収覚書の締結が間に合わず、残念ながら学籍の付与をせずに科目の聴講のみを認めることとした。

地域名	国・地域名	協定校名	計	国別計	地域別計		
東アジア	中国	Dalian University of Technology	81	596	608		
		Hunan University	57				
		Nanjing University	5				
		Northeastern University	40				
		Peking University	4				
		Shanghai Jiao Tong University	15				
		Shenzhen University	33				
		Southeast University	97				
		Tongji University	149				
		Wuhan University	52				
		Xian Jiaotong University	24				
	Zhejiang University	39					
	中国（香港）	The Chinese University of Hong Kong	1	1			
台湾	National Yang Ming Chiao Tung University	1	11				
	National Cheng Kung University	10					
東南アジア	インドネシア	Institut Teknologi Bandung	15	193	458		
		Universitas Airlangga	132				
	Universitas Gadjah Mada	46					
	シンガポール	National University of Singapore	11			11	
	タイ	Chulalongkorn University	1			4	
		Mahidol University	3				
	フィリピン	University of the Philippines	45			45	
		Sultan Sharif Ali Islamic University	104				
	ブルネイ	Universiti Brunei Darussalam	13			139	
		Universiti Teknologi Brunei	22				
ベトナム	CAN THO UNIVERSITY	51	66				
	Hanoi University of Science and Technology	6					
	Vietnam National University Hanoi	9					
欧州	オーストリア	The University of Vienna	1	1			
	オランダ	University of Groningen	11	11			
	スウェーデン	KTH Royal Institute of Technology	16	16			
		Heidelberg University	1				
	ドイツ	Universitaet Frankfurt am Main	24	103			
		Ludwig-Maximilians- University of Munich	2				
		RWTH Aachen University	51				
		Technische Universitaet Munchen	1				
	University of Goettingen	24					
英国	University College London	147	147				
北米	カナダ	University of Toronto	35	35			
	米国	University of California (UCLA)	2	12	47		
University of California (UCSD)		10					
南米	コロンビア	Universidad de los Andes	1	1	1		
総計			1,392	1,392	1,392		

図5 各協定校の履修希望者

課題

前述のように多数の受講者を得て開始した特別講義プログラムであったが、全員が履修を最後まで終えたわけではなかった。本稿執筆時点（7月中旬）ではまだ成績評価までは完了していないため確定した数字は出せないが、科目によりばらつきがあるものの、概ね6~8割程度の学生が単位を修得できる見込みである。

また、本学学生にも受講を呼びかけたが、約40名の受講にとどまった。これは協定校学生の履修希望者が想定より多く、本学学生への募集期間を短く設定せざるを得なかったこと及び学期始めの4月に募集を行ったこともあるが、ディスカッション(図6)を英語で行うなどの設定に関して履修を躊躇した学生がいたことが考えられる。

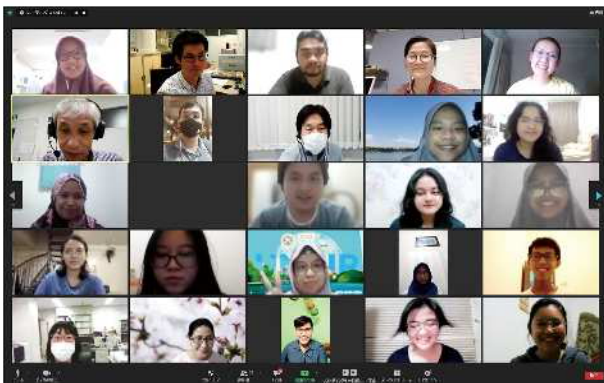


図6 ディスカッションの様子

おわりに

2019年末に発生したCOVID-19感染拡大により、世界中の学生が留学を断念する事態となった。学生が往来することも叶わず、協定校との交流及び教育連携が低下することが危惧された。しかしながら、オンラインやオンデマンド等による新しい授業スタイルが普及することにより、海外への授業提供やバーチャルな留学を体験する機会が増えた。時を同じくして、創立90周年を迎える大阪大学と2007年に統合した大阪外国語大学の創立100周年事業が計画されていた。このタイミングで、大阪大学の教育研究力をオンライン特別講義プログラムで発信できたことは非常に有意義な事業であった。コロナ禍でも、国際教育プログラムを提供するだけでなく、協定校の学生がオンライン特別講義プログラムを受講することにより、大阪大学への興味を深めるきっかけにもなった。コロナ新時代に向かって、オンライン授業と実際の留学とのハイブリッド教育が促進されることを期待している。

謝辞

本オンライン特別講義プログラムの企画・運営には、国際部国際企画課の村田安紀子氏、秋永真由氏、森野慎也氏にご尽力いただいた。またCAREN事務局の野尻郁子氏にもご協力いただいた。誌面にて感謝申し上げます。

